

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成25年 6月28日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

| | | | | |
|------------------|--------|-----------------------|------|----------|
| NPO法人等 (実施主体) | 種別及び名称 | 特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン・結 | | |
| | 住所 | 福島県福島市小倉寺字中ノ内 27-10 | | |
| NPO法人等 (連携先) | 種別及び名称 | 同上 | 担当者名 | 富樫 美保 |
| | 住所 | 同上 | 電話番号 | 528-9981 |

(2) 協議体が申請する場合

| | | | | |
|-----------------------|---------------------|--|--------------|--|
| 協議体の名称 | | | | |
| 代表構成員の団体名 及び代表者職氏名 | | | | |
| 構 成 団 体 | 都道府県・市区町 村名及び部課名 | | 事業における 役割 | |
| | 民間非営利組 織の種別・名称 | | 事業における 役割 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 住所 | | 電話番号 | |

2 事業概要

| | |
|---------|---------------------------------|
| 事業名 | ～未来へつなぐ～ 福島リーダー チーム2013 |
| 総事業費 | 4,350,000円（うち希望補助金額 3,776,000円） |
| 事業の実施期間 | 平成25年 7月20日から平成26年 3月31日まで |

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

| | |
|------------------------|--|
| 地域における 課題と事業の 目的 | <p>地域課題、地域社会にとっての必要性（ニーズ）及びその確認方法、重要性、この事業により期待できる成果、地域住民への効果等がわかるように記載してください。</p> <p>これからの福島を担うのは子どもたちである。美しく豊かな未来の福島を作り上げるためには、リーダーとなるべく子どもたちが、震災から学び、伝え、考え、自ら動いていくことが不可欠である。</p> <p>この事業により、子どもたちは、学び・感じ・行動する。そうすることで、未来のリーダーとしての自覚を芽生えさせ、そうなるための術を学ば</p> |
|------------------------|--|

| | |
|-------|---|
| | <p>せることができる。福島未来は、より美しく豊かなものとなって行く。</p> |
| 事業の目標 | <p>「〇〇を〇〇以上にする」等、可能な限り数値を用いて記載してください。</p> <p>最初の段階では、相馬市の高校1年生374人全員に意識付けをし、その中でも、未来のリーダーとしての意識が高い学生15名（相馬の高校生の人数の約5%）を相馬市の担い手として育てる。この学生たちがモデルとなり、未来のリーダーが全県に広がることを最終的な目標とする。</p> <p>（相馬市の高校生を対象とした理由については、事業内容の中に記載）</p> |
| 事業内容 | <p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。</p> <p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。</p> <p style="text-align: center;">STEP 1</p> <p>事業を次のステップに進めるにあたり、よりの確に事業の目的を達成するため、紙面での周知ではなく、直接学生に語りかける講演会という形をとる。</p> <hr/> <p>講演会</p> <p>開催日：9月16日（月・祝） 実施場所：相馬市 対象・参加予定者：相馬市高校1年生</p> <p>講師①：佐藤義則氏（東北楽天ゴールデンイーグルス一軍コーチ） 「ヒーローが出れば勝てるんだから、まずは、自分がかんばれ！」 講師②：森崎清登氏（長田区ユニバーサルデザイン研究会会長） 「復興の希望を作り出す若者たち」</p> <hr/> <p style="text-align: center;">STEP 2</p> <p>ユニバーサルデザインの理念で「気づく」 過去を学びこれまでの活動を「振り返る」 福島の現状を「受け止める」 ワークショップを通して「考える」</p> <hr/> <p>講座4日間</p> <p>【1日目】10月19日（土） テーマ「思いやり・支え合いUDを学ぶ」 ○1 講義目：ユニバーサルデザイン7原則 講師③：川内美彦東洋大学教授（東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科）</p> <p>○2 講義目：実践編 講師④：NPO 法人ユニバーサルデザイン・結 代表理事富樫美保</p> <p>○3 講義目：まとめWS・コーディネーター川内美彦氏</p> <p>【2日目】10月26日（土） テーマ「過去から学ぶ」</p> |

- 1 講義目：講師⑤林 真一郎氏（ラジオ関西アナウンサー）
「できることは、伝え続けること・・・」
- 2 講義目：講師⑥定池 祐季（北海道大学大学院理学研究院付
属地震火山観測センター）
「若い世代と共に復興へ歩むことで、次世代に希望
のバトンをつなぐ」
- 3 講義目：講師⑦平野裕康三宅村前村長
- 4 講義：まとめWS・コーディネーター：林 真一郎

【3日目】11月2日（土）

テーマ「3. 11から学ぶ」

- 1 講義目：講師⑧丹波史紀（福島大学災害復興研究所）
「震災から2年6ヶ月、復興の課題」
- 2 講義目：講師⑨渡邊とみ子かーちゃんの力・プロジェクト協
議会代表
「かーちゃんたちが目指す復興/福幸」
- 3 講義目：講師⑩加瀬和俊東京大学社会科学研究所教授
「沿岸漁業復興の倫理と課題」
- 4 講義目：まとめWS・コーディネーター丹波史紀氏

STEP 3

神戸は福島の未来への道しるべ。神戸の復興を支えた取り組みや、活動した
リーダーたちと出会い交流することにより生まれる復興魂。

神戸視察・交流会「1. 17から3. 11ミライノハナでつながる想い」
・オリエンテーション12月14日（土）

開催時期：12月24日（火）～26日（木）2泊3日

行程・内容

【1日目】午前：移動

午後：阪神・淡路大震災記念 人と未来防災センター見学
レクチャー：講師⑩関西大学社会安全学部長・社会安
全研究科長 河田恵昭

夜：講師⑪長田区ユニバーサルデザイン研究会交流会より
講師⑫コミュニティーラジオ局FMわいわい代表理事

【2日目】午前：神戸市視察（神戸市都市計画総局計画部まちのデザイ
ン室案内）

午後：シンポジウム

事例発表1：舞子高校環境防災科3年生

事例発表2：講師⑬西宮復興まちづくり支援ネットワ
ーク

事例発表3：講師⑭神戸ルミナリエ実行委員会

事例発表4：講師⑮公益財団「神戸文化支援基金」理事
長 ギャラリー島田（神戸北野）

【3日目】午前：自主企画による研修

午後：移動

STEP 4

この事業の総まとめとして、これまで学んだことを「伝える」。「伝える」こと
 でこれからの復興活動への自らの関わりのスタートとなる

発表会平成 26 年 2 月 22 日（土）

「将来へつながる復興を僕たちの手で」

開催場所：相馬市市民会館

根本匠復興大臣・福島県知事・相馬市長来賓に、関係者、県民招待して開催する

発表会準備WS 第 1 回平成 26 年 1 月 25 日（土）

第 2 回平成 26 年 2 月 1 日（土）

第 3 回平成 26 年 2 月 15 日（土）

| | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|---|
| 見 込 ま れ る 成 果 | 1. 本県の復興 支援・被災者 支援の 観点 | <p>事業によって見込まれる成果について、直接的な効果と波及効果の観点の2つの観点で記載してください。被災者支援の場合は、特に、本事業により支援を受けた被災者の延べ人数を記載してください。</p> <p>【直接的な効果】子どもたちが、過去・現在・未来のつなぎ役となるリーダーになる。この事業を通して、約15名高校生たちが、過去の震災から学び、感じ、考え、行動することにより、より美しく豊かな福島を作り上げて行くことができる。</p> <p>【波及効果】今回対象とするのは、浜通りの相馬市の高校1年生であるが、その活動を伝え、または伝えられることによって、「自分もまちづくりに参加しよう」という意識を持つ若者が、浜通りの他のエリア、そして福島県内で増え、復興に参画する波及効果も期待できる。</p> <p>【支援を受ける被災者の延べ人数】 リーダーの養成対象となる人数は限られているが、ひいては県民200万人の将来に大きく波及するものである。</p> |
| | 2. 取組 実施主体の運 営力強 化の観 点 | <p>取組内容により、取組実施主体においてどのように運営力強化が図られるのか記載してください。</p> <p>① UDの7つの分野のテキスト・ワークシートを作成することで、今後、本法人の企業・行政への研修や、また学校関係へのUD授業での活用等を通して、事業拡大が見込まれる。</p> <p>② 対象となる若者たちの中に、ユニバーサルデザインへの関心が生まれ、ひいては当法人の活動への理解・参画へとつながる。</p> |
| 事 業 ス ケ ジ ュ ー ル | | <p>いつ、どのような活動を行うのか、事業の進め方、段取りがわかるように記載してください。</p> <p style="text-align: center;">事業内容の欄に記載</p> |
| 事 業 実 施 体 制 | | <p>事業の実施責任者、会議体の構成員の名称及び役割分担等を記載してください。複数の団体が連携して申請する場合は、連携の具体的な内容についても記載してください。</p> |
| 事 業 終 了 後 の 展 開 | | <p>事業終了後、会議体の取り組みをどのように継続し、または発展させるのかを記載してください。</p> <p>今回の事業では「伝える」ことをテーマとする。2014年には「考える」、2015年には「動く」をそれぞれのテーマとして、企画を発展させて行く。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| <p>事業の先進性・普及性</p> | <p>どのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるのかを記載してください。</p> <p>福島において、未来のリーダー育成事業への関心はまだ薄いと思われる。この事業は、相馬市だけにとどまらず、県内全域でリーダー育成への関心と呼ぶ先駆者的な事業となる。</p> <p>この事業が、テレビ・ラジオ・新聞などのメディアに取り上げられることによって、まちづくりの意識が広く浸透し、この事業をモデルとしたリーダー育成事業が盛んになる。</p> |
| <p>特記事項</p> | <p>特に説明しておきたい事項、アピールポイント等ありましたら記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハートに響く講師陣の精神に触れる。 ●福島をとびだし、体感することで、視野が大きく広がる。 ●日本で唯一の環境防災科で学ぶ同じ高校生と交流することで、復興への意識が高まる。 |

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン・結

【収入の部】

（単位：千円）

| 区 分 | 平成 年度 予 算 額 | 明 細 |
|--------------------------|----------------|-----|
| ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金 | 3776 | |
| 自己資金（負担者名） | 574 | |
| | | |
| 事業収入 | 0 | |
| その他収入 | 0 | |
| | | |
| 収入合計 | 4350 | |

【支出の部】

（単位：千円）

| 区 分 | 平成25年度 予 算 額 | 明 細 |
|-------------|-----------------|---|
| 人件費（共済費を含む） | 752 | <p><イベントスタッフ人件費> 752,200</p> <p>1日6,640円×延べ11日×5人=365,200円</p> <p><コーディネーター人件費></p> <p>1時間664円×5時間×101.5日（9ヶ月）×1人=336,980円</p> <p><打合せ人件費></p> <p>1日5,000円×5回×2人=50,000円</p> |
| 報償費 | 388 | <p><講演料> 388,000</p> <p>28,100円×12人（講師①・講師②・講師④・講師⑤・講師⑥・ 講師⑦・講師⑧・講師⑨・講師⑩・講師⑪・講師⑫・講師⑬） =337,200円</p> <p>9,300円×3人（講師⑬・講師⑭・講師⑮）=27,900円</p> <p><コーディネーター費></p> <p>23,100円×1人（講師③*講演・コーディネーター・全事業の アドバイス）=23,100円</p> |

| | | |
|----------|-------|--|
| 旅費 | 1,825 | <p><神戸視察交流会></p> <p>○1人 67,700円 (交通費+宿泊費+食費) ×20人 = 1,354,000円</p> <p>○神戸市内移動費 = 80,000円</p> <p><講師旅費></p> <p>○神戸・福島間往復 40,700円 × 2人 (講師②・講師⑤) = 81,400円</p> <p>○東京・福島間往復 17,000円 × 7人 (講師③⑤往復・講師⑦①往復・講師⑩①往復) = 119,000円</p> <p>○仙台・福島間往復 4,500円 × 1人 (講師①) = 4,500円</p> <p>○北海道・福島間往復 63,000円 × 1人 (講師⑥) = 63,000円</p> <p>○福島県内往復 2,000円 × 3人 (講師④・講師⑧・講師⑨) = 6,000円</p> <p><講師宿泊費></p> <p>○1泊 7,000円 × 延べ11泊 = 77,000円</p> <p><神戸打合せ時旅費></p> <p>○1人 40,700円 (交通費+宿泊費) × 1人 = 40,700円</p> |
| 需用費 | 1,076 | (消耗品費+燃料費+印刷製本費) |
| 消耗品費 | 59 | <p><事務用品費></p> <p>32,000円</p> <p><コピー費></p> <p>3,000円 × 9ヶ月 = 27,000円</p> |
| 燃料費 | 27 | <p><打合せ時燃料費></p> <p>1台往復 1,500円 × 4回 = 6,000円</p> <p>2台往復 3,000円 × 7回 = 21,000円</p> |
| 印刷製本費 | 990 | <p><印刷費></p> <p>UDハンドブック/B6版 30ページ (1,000部) = 400,000円</p> <p>UDシート/A3版両面 (5,000枚) 80,000円 × 7タイプ (「こころ」「暮らし」「まちづくり」「ものづくり」「サービス」「情報」「観光」の7分野) = 560,000円</p> <p>事業周知用チラシ/A4版印刷 (500枚) = 30,000円</p> |
| 役務費 | 189 | (通信運搬費+手数料+保険料) |
| 通信運搬費 | 180 | 1ヶ月 10,000円 × 9ヶ月 × 2台 = 180,000円 |
| 手数料 | 0 | |
| 保険料 | 9 | 保険料 1日 3,000円 × 3日 = 9,000円 |
| 使用料及び賃借料 | 20 | 最終発表時ホール使用料 (1日) = 20,000円 |
| 委託料 | 0 | |

| | | |
|------|-------|----------------|
| 必要備品 | 100 | UDグッズ=100,000円 |
| 支出合計 | 4,350 | |

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。